

LIBRA リブラ・スクエア SQUARE

book

最近、おもしろかった本

『大正時代の身の上相談』

カタログハウス 編 ちくま文庫 714円(税込)

歯に衣着せぬ回答、醸し出す時代の空気

今や、新聞、テレビなどで日常的に目にする「身の上相談」。この公開式の身の上相談が、日本で最初に登場したのは、大正3年のことらしい。この本では、大正時代の新聞紙面で取り上げられた、数多くの「身の上相談」が、テーマごとに紹介されている。

本を開けば、「許婚のある身で、ほかの男子に接吻されてしまった。“汚された”以上、一生を独身で送るべきではないか」と思いつめる少女や、「妻が処女でなかった」と悩む夫のように、いかにも大正人らしい相談に出会ったり、「毎日何不自由なく暮らしているが、閑散とした日々には何か物足りない思いが募る」と嘆く主婦や、「愛のない結婚にむなしさを覚える」と苦悩する夫のように、現代にも通じる相談に出会ったりする。こうした悩みの数々には、大正に生きた人々の生活が活き活きと現れている。

相談に対する回答も、また面白い。この時代の回答者は、



現在と異なって、新聞記者が務めていたようであるが、歯に衣着せぬ物言いで、行いの正しい相談者は盛大に褒め、身勝手な相談者は容赦なく叱る。こうした回答には、当時の時代を支配していた社会常識や当時の風潮が端的に現れている。

その一方で、「女の子のことばかり考えて、勉強に身が入らない」と悩む少年に対しては「毎朝冷水で頭を洗え」と諭したり、「夫がみかんを一度に20個も食べる」と心配する妻には「りんごも食べるように」と諭すなどの珍回答も見られる。

大正時代、それは、古い価値観がまだまだ圧倒的に社会を支配している中で、大正デモクラシーの波が押し寄せ、人々の中に自由・個性の尊重が急速に広まっていった時代でもある。大正に生きた人々は、新しい価値観や自由を謳歌しようとする一方で、古い価値観との衝突や、理想と現実との狭間に揺れながら、新たな苦悩を抱えていたのかもしれない。

(会員 佐藤 香代)

cinema

心に残る映画

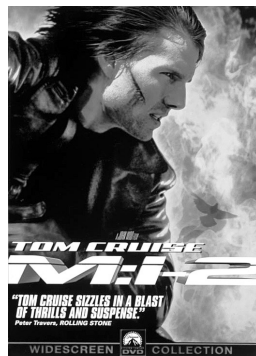
『M:I-2』

2000年／アメリカ／ジョン・ウー監督作品

アクション系勧善懲悪型映画の王道

私は、恋愛や悲劇を扱った映画は基本的に観ない。映画を観終わった時は、気持ちよく爽快感を味わいたいからである。であるから、観る映画は、基本的にアクション系で、しかも、勧善懲悪型のものになる。

『M:I-2』この映画は、トム・クルーズによる「ミッション・インポッシブル」の2作目である。2000年に公開された。この映画は、いわゆる「スパイ大作戦」の映画版である。まさに、アクション系で勧善懲悪型の王道をいくものである。私は、テレビでこのシリーズの再放送を見たことがあった。テレビでは、リーダーの「フェルプス」が率いるスパイチームが活躍するが、映画では、そのメンバーの1人であるトムが演じる「イーサン・ハント」が主役だ。1作目は、意外にも最終的な悪役が「フェルプス」であり、テレビとは全く違うストーリーであった。もちろん、迫力やその展開の速さは、私を満足させてくれるに十分であった。



『M:I-2』
DVD 発売元：パラマウント ホーム
エンタテインメントジャパン
価 格：¥1,575（税込）
期間限定 HAPPY CINEMA TIME
100MOVIES ALL ¥1,575
3/25～8/31

2作目は、イーサンのその後の活躍を描くものである。なぜ、数あるアクション系の映画の中で、この映画が記憶に残るのかというと、試写会に行って、トム・クルーズを見たからである。私は、トム・クルーズを見るまで、人々が俳優やアイドル等の有名人を見て大きな歓声を上げる心境が理解できなかった。テレビなどでそのような様子を見て、私は、よく顔をしかめていたものである。しかし、彼が、車から降りて私の前に現れた時、思わず「うおー」と大人気なく声を上げてしまった。もちろん、試写会の会場にいるのはほとんど女性であり、その歓声に私の声は、かき消されたが。当時、私は、受験生であり、彼を見て非常に元気付けられたのである。

それ以来、私は、トム・クルーズの大ファンであり、近日中に公開される「宇宙戦争」を楽しみにしている。

（会員 赤司 修一）